5年生「外国につながる人の声を聴こう」〈9月25日・10月1日〉

三重県環境生活部のダイバーシティー社会推進課より２名の国際交流員の方に来ていただいて、ブラジルやオーストラリアの言語や文化の違い、日本へ来た時の気持ちや「笑顔と優しさで心はつながる」ことを教えていただきました。また、高茶屋日本語教室の田中レオニセさんにも来ていただき、「差別は誰もが持ってしまうことを知ることが大切」だと教えていただきました。「日本に来て間もない頃、スーパーで偏見の目で見てきた相手の顔と、バスに乗車した時にとても優しかった運転手さんの顔、どっちの顔も忘れられない。みんなは大人になった時に、どっちの顔になりたいですか？」この言葉は子どもたちの心に強く残ったようです。

- 私は発表するときなどに不安や緊張をすることがあります。その気持ちも他の国や知らない場所に行くときと似ているのなと思いました。笑顔で迎えたり、その人の文化を知ったりすることが大切だと思いました。
- ホテルに泊まった時、外国人の人に説明をしてもらいました。そのとき、私は日本語が面白くて笑ってしまいました。その時、外国人の人も笑っていたけれど、頑張って話していたから、きっと傷ついたと思います。

～子どもたちのふりかえりより～

「子どもたちと一緒に成長できる教師に！」

本校は近隣大学の連携校として、例年、多くの教育実習生を受け入れています。９月から約一か月間の教育実習を終えた９名の実習生は本校の子どもたちと一緒に勉強したり、遊んだり、悩んだりしながら、多くのことを学んでくれたと思います。

実習を終えた実習生からの声を一部紹介します。

この実習で、西が丘小の子どもたちと一緒に楽しんだり、笑ったり、学んだり、悩んだりしてきたことで、教師という仕事は、とてもやりがいのある職業であり、子どもたちの成長を一番近くで感じられる素晴らしいものだと感じました。

子どもたちが頑張るから、教師も頑張れる。子どもたちと一緒になって成長できる教師を目指します。

先生という仕事は体力も心もすり減るような大変な仕事で、実習中に「先生って本当にすごい」と感じる場面が数えきれないほどありました。自分には到底できないと感じることもありましたが、目の前の子どもが少しでも成長したり、喜んでいる姿を見ると頑張りたくなったり、応援したくなったりする、とても魅力がつまっている仕事だと改めて感じることができました。